

令和7年度都立小川高等学校における教科指導の重点

重点科目	重点課題	取組	発展的取組
国語	実社会で生きる国語力の育成	文学的文章や論理的文章にとどまらず、表やグラフの読み取り・資料的文章までの幅広い文献を読解させ、全ての教科の基礎基本となる教科国語の力を育てる。	各学年共通で、読解や資料解釈の根本となる語彙力を育てる。副教材等を活用し、知識の修養にも時間を費やし、実社会で必要不可欠な「言葉の知識」の力を伸ばしていく。
地歴・公民	多角的な視点を生かした学力の三要素の充実	・地歴科・公民科の連携による時間軸と空間軸の知識を広げる ・様々な社会問題を自分ごととして捉える思考力の育成 ・自らの興味・関心に基づいて、主体性を伸ばし成長を促す指導	・時事問題や大学受験に対応できる個別指導の充実 ・アクティブラーニングなど共同して発見力をつける授業改革 ・外部講師の招聘や探究学習の連携で総合型選抜対策の特別授業
数学	数学的な見方、考え方を働かせた数学的活動	・事象を数学的に捉え、数学の問題を見だし、解決に導き出せる教材の開発 ・問題解決の過程において、論理的に考察する活動を重視した授業の実施 ・一つの解法だけでなく、様々な見方、考え方を発見できるように工夫	・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、その過程を自ら評価・改善したり、発展的な問題の解決に利用しようとする態度の評価を取り入れた授業の実施
理科	「探究の過程」を踏まえた学習活動の充実。	自ら課題を見出し、探究活動に取り組む姿勢を育む教育計画の作成。 主体的に課題に取り組み、解決に向かう力の育成。	教科を越えた教員相互の授業参観の実施。 一人1台端末を活かした調査や実験データ整理の取り組み。
保健体育	健康の成り立ちを理解し生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	・年間を通して様々なトレーニングを行い、総合的に体力の向上を図る。 ・自ら運動を計画し実践できる能力を高める。	・体育理論と結び付け、トレーニングの内容を自ら考える。 ・3学年では種目選択を行い、生徒が授業計画をたて、授業を行う。
音楽	・表現活動の充実とその能力の育成	・主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、他者と協働して楽曲を完成させる。個人カードでの振り返りと、自ら継続性のある目標設定を定着させる。	・授業内での発表や合唱祭などで、他者との違いも認めながら表現を高め合う機会を設定し、深い学びの実現を図る。
美術	豊かに発想し構想する能力や基礎的技能を身に付け、創意工夫し表現する能力を育てる。	・形や色彩の表し方、彫刻などにおける立体としてのものの見方や形体の表し方、材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付ける。 ・振り返りシートを活用し、「調べる→制作→発表→振り返り」のサイクルを定着させる。	・主題の発想から表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図る。
書道	「臨書」を通して技術を学び、「創作」活動にそれを生かしていく学習活動の充実	・表現の幅を広げるために、できるだけ様々な分野の書風の違った古典の臨書を実施 ・他人の書を鑑賞することから自分の個性を発見したり、異なる表現方法の存在を意識したりできる指導を実施	・古典の臨書学習で習得した技術を創作という自分の表現に取り込むことができるか、イメージを整理しやすいよう助言し作品完成へ道びく指導の実施
英語	授業を通して、4技能を学ぶとともに、自学自習による向上につなげる	・小テストを充実させたり、本文訳の課題をだすことで、自宅学習の習慣をつけさせる。 ・辞書や参考書の活用方法を教え、自分で調べる習慣をつけさせる。 ・週末課題などにより自宅学習の習慣をつけさせる。	・パフォーマンステストを実施し、「話すこと」、「書くこと」の活動の準備をさせる。 ・JETを活用し、放課後に希望者に外部資格試験(英検など)のスピーキング指導を行い、資格取得者を増やす。
家庭	実習と講義をつなげて、定着を図る	各分野にそれぞれ実習課題を課し、実体験と理論のつながりから理解をすすめる実生活で活かせる授業を行う。	各分野で実習で作成したものが自分で使えることを前提に、必ず完成させて提出させる。
情報	情報技術を効果的に活用する能力の育成	情報や情報技術の特性・問題解決力・法規や制度・情報技術の向上により人間や社会に及ぼす効果を理解させる	目的や状況に応じ情報技術を適切かつ効果的に活用し、更に各種法規やマナーに順守した技術力を持たせる